



学校だより

令和 6 年 2 月 2 9 日
江戸川区立新田小学校
第 11 号

I believe in future 信じてる

校長 大石 吉郎

暖冬の影響で、スキー場が営業できないまま今シーズンが終了してしまうニュースなどを聞くと、いつもとは違う冬であることを実感します。東京でも寒暖差のある日が続いていますが、本校の校庭を見渡して見ると、梅の花が見ごろを迎えていました。

そして、その梅の花の蜜をお目当てにメジロが飛んできていました。メジロは、どこで梅の開花を察知するのか、暖冬であっても自然の営みは、人間の力を超えた力で、私たちに畏敬の念を抱かせます。



さて、昨年度までコロナ禍で中止となっていた、4年生のスケート教室ですが今年度から実施となりました。

本校では、2月22日(金)に江戸川スポーツランドに行きスケートを体験してきました。指導員の先生の話をしっかり聞いて、氷上に挑みました。最初は、陸上との動きと違って、思うようにいかずに苦戦している様子が見られましたが、徐々に慣れてきて、最後にはリンクを周回できるようになった子供たちがたくさんいました。

最後に指導員の先生から子供たちに、「何度失敗してもいい、やりたい気持ちを持ち続けていくこと、それが次のステップにつながる」というメッセージをいただきました。高学年に進級していく子供たちにとって、大切にしていきたい言葉でした。

そしてこの時期は、6年生にとって、「6年生を送る会」「ありがとうの会」と続くことで、6年間の歩みを一人一人が振り返りながら卒業に向けての気持ちを高めていくことになるでしょう。右の写真は、「6年生を送る会」の練習の様子です。本番はきっと、思い出に残るすてきな会になるはずです。

46 億年の歴史をもつ地球、そして80億人と言われる地球上の人口、途方もなく大きな数字の中で、同じ時代に生まれ、同じ地域に住み、縁あって同じ学校で出会う。地球の歴史からは、まばたきほどの瞬間に「新田小学校」で時間と空間を共有していることは、奇跡的なことです。「人との出会い」は縁であり、奇跡の重なりでもあります。



たとえば君が 傷ついて
くじけそうに なったときは
かならず僕が そばにいて
ささえてあげるよ その肩を
世界中の 希望のせて
この地球は まわってる

「6年生を送る会」では、全校で「ビリーヴ」を歌います。1番の詩に「くじけそうになった時は かならず僕がそばにいて ささえてあげるよ その肩を」とあります。1年生から5年生の児童も、この奇跡を大切に仲間とともに、新しい出会いの 4 月に向けて、これからも努力を続けていってほしいです。

卒業していく6年生には、「新田小学校」で出会った奇跡が、すてきな思い出と重なりあって記憶に刻まれ、人生の糧となり、「心のふるさと」になることを願っています。

最後になりましたが、この 1 年間、本校の教育活動にご支援ご協力をいただきました保護者の皆様方、地域の皆様方に心より感謝申し上げます。